

発覚した業者の契約不履行 市も監査も怠った納品確認



LED騒動に揺れる北斗市役所

函館の隣にある北斗市(池田達雄市長が手掛けた総額1億1800万円弱のLED化事業が一者随意契約だったことをめぐると問題の続報だ。住民監査請求は棄却されたものの、このほど施設の一部で蛍光灯がLEDに交換されていなかった契約不履行が発覚。引き渡しの際に業者と市がともに確認を怠っていたという杜撰さが明るみになった。さらには照明灯の積算が水増しされていた疑惑も浮上するなど、道南で起きたLED騒動はまだまだ収まりそうにない。

(本誌編集長・工藤年泰)

謝罪に追い込まれた北斗市

北斗市が2020年と21年に行った市内5カ所の公共施設におけるLED照明リース事業で、大阪の照明機器会社イーシムズ(前号でE社と表記)と総額1億1767万円の随意契約を結んだことが問題視されているのは既報の通りだ。

その決定や発注金額の是非をめぐ

り春先から議会などで追及を受けてきたほか、6月には市民13人が契約解除の勧告などを池田達雄市長に求めて住民監査請求を起こした。

だが、市監査委員会(野口秀一代表監査委員)は調査の結果、「随意契約したこと違法・不当な点は認められず、事業費は適正であった」とし、8月29日付で請求を棄却。住民側が事実証明書として示したLED



問題追及を続ける高村智市議

事業者で札幌に本社を置く株式会社あかりみらい(前号でA社と表記)の見積りについては、市の結んだ契約とは内容が大きく異なっているとして採用されなかった。同社の見積りはイーシムズより4700万円以上安価だったが、監査委員会は、全ての施設の照明器具が少なく積算されているなどとして「見積り金額(信憑性に疑いを持たざるを得ない)」と一蹴している。

ところが監査委員会の判断とは裏腹に、イーシムズ側の工事や市側の対応が問われることが最近次々と起きている。

高村智市議(市政クラブ・2期)の「リース契約を結んだ浜分小学校の一部の照明が蛍光灯のままになっている」との指摘を受け、9月29日に

現地調査を行なった市は10月3日の議会で工藤実副市長が結果を報告。同社との契約に含まれている照明5灯がLEDに交換されていなかったことを認め、「市として確認が不十分だった。深くお詫びする」と陳謝に追い込まれたのだ。

工藤副市長は契約図面にはなかった照明11灯も交換がなされていないことも明らかにし、前者の5灯については「引き渡しの際の業者による確認漏れ」が原因だったと説明した。この事態を受けて市は同社と同様の契約を結んでいる他の4施設(市スポーツセンター・市民プール・上磯中学校・大野中学校)についても2日後の10月5日に現地調査を実施した。

「調査の内容や結果については、今月下旬の臨時議会で報告することになる。それまでは外部にコメントできない」(総務部・川原弘成部長)

工藤副市長の答弁で驚くのは、業者が引き渡し時に照明数の確認を怠ったばかりか、設備を引き渡された市側も納品検査をしていなかったという事実だ。同校についても調査したはずの監査委員会も教室などには立ち入らず、全ての照明がLED



あかりみらいの代理人を務める上田文雄弁護士

に交換されたか確認していないというお粗末さ。これでは「信憑性に欠けるのは、いったいどちらなのか」と言われかねない。

問題はこれだけではない。浜分小学校のLED工事でイーシムズが使用した工事図面で照明灯の数を記者が精査したところ、同社の積算と辻褃が合わないケースが見受けられ、中には図面の照明数より数倍、数十倍の数でカウントされているものもあった。これは何らかのミスによるものなのか、それとも意図的に工事費を増やしたもののなか。

今回の監査委員会の報告書を受けて、あかりみらいの越智文雄社長は怒りを隠さず、「弊社は同様のリース手法を使って全国で50を超える自治体の皆さんを相手に仕事をしてきた。報告書は我々の信用を著しく貶める内容であり、到底容認できない」と

し、10月上旬に北斗市と監査委員会宛に「要請書」を送付したことを明らかにしている。

同社の代理人・上田文雄弁護士(道央法律事務所・前札幌市長)は、その目的について次のように話す。

「監査委員会は我々が実際の照明灯の数より過小に見積もったと判断し、それが信憑性を疑うという表現になっている。ならばそういう判断に至った根拠、事実関係をはっきり示してもらいたいということです」

先の高村市議は、一連の問題に就いて「今回の事業におけるリース料率を計算してみたところ、8年リースの学校関係では年率換算で10%前後にもなることがわかりました。異常とも言える高さで、こういう面でもイーシムズにとっていかに有利な契約だったかがうかがえます」とも指摘している。

記者は、今回の事業を所管していた同社の北海道営業所(札幌)に10月5日から翌6日にかけて再三にわたって取材を申し込んだが、「営業所長が不在で対応できない」との返事に終始。一連の問題に関するイーシムズ側のコメントはメッセまで得られない。